



文教福祉 常任委員会

介護予防・日常生活支援総合事業と居場所づくりを調査

世代を超えた「ふれあいの居場所づくり」の推進を求む

委員長 島田 榮一
 副委員長 三友美恵子
 委員 月田 均一
 柳 沢 浩一
 宇津木 治宣

●玉村町の高齢化の現状と課題

玉村町の高齢化率は現在21・2%であり、全国平均を下回っているが、今後急速な高齢化が予想される。高齢者人口の増加は、社会保障負担を増大させる。こうした課題に対し、国は介護保険制度の改正を行った。市町村は「重度な要介護状態になっても住みなれた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるような仕組み」（地域包括ケアシステム）をつくり、主体的に取り組むことが必要となった。その中でも基本となるのが「生活支援・予防介護」である。



上福島の居場所「ふれ愛」

●「ふれあいの居場所」の現状と課題

町は、地域包括ケアシステムの基本となる「ふれあいの居場所」づくりを積極的に推進している。各居場所では、趣味や特技を生かし特色ある活動を積極的に進めている。現在は公民館で進めているが、自分の足で通えるところに居場所があることが理想であり、現在13カ所で開催されているが、将来はさらに多くの居場所が必要となってくる。



のれんが出ているときは開催しています

まとめ

「ふれあいの居場所」の活動を継続するために、多くの担い手がお互いに支えあえるような町のサポートが必要であり、継続的な運営にかかわる費用補助についても検討が必要である。居場所を含めた地域支援事業への取り組みは、高齢者だけでなく世代を超えて考えるべき課題である。若い世代にも情報提供していくことを期待する。



筋トレで居場所づくり（板井の居場所「ふれんど」）